

第五次須坂市総合計画 基本構想 素案

第五次須坂市総合計画 基本構想では、須坂市のこれまでの経過や現状、課題を踏まえ、須坂市のまちづくりに対する基礎となる考えと目標とするまちの将来像を示し、市民の皆さんとの共創による将来像の実現を果たす共通の約束として位置づけます。

1 序論

記述のポイント：

計画策定に当たっての趣旨や計画の構成・期間など、計画の前提となる項目を整理する。

(1) 総合計画づくりの基本的な考え方

記述のポイント：

須坂市の現状及び地方行財政に関する改革の動向を踏まえ、持続可能かつ実践的な総合計画を策定することを記述する。

新しい総合計画では、世界的な金融危機による経済成長の低下や少子・高齢化の進展、人口減少社会の本格的な到来、政府・自治体の財政状況の悪化と地方財政計画の変革などの現在の社会や経済の環境を的確に把握するとともに、新たな社会制度にも対応する現状に沿った実効性のある計画となるよう、以下の点を念頭に置き総合計画をつくりました。

① 共創による総合計画づくり

行政サービスに対するニーズの多様化・高度化が進む中、ニーズに的確に対応したまちづくりをすすめるためには、まちづくりの主人公である市民の皆さんのより多くの参加を得て総合計画をつくる必要があります。参加していただくため、117人会議や地域づくり市民会議などのご意見をお聞きする場や市民総合意識調査、すまい調査(須坂市のまちづくり意識調査)などのアンケート調査などの様々な機会や方法を用いて、約2,000人(21年12月現在)の市民の皆さんの参加により市民の皆さんと行政の双方向のコミュニケーションをとりながら、片方では解決できない課題をみんなで知恵と力を出しあい、お互いに助け合いながら総合計画づくりを進めます。

② 新しい地域経営

自然や歴史・文化をはじめ、人材やさまざまな活動団体などの「ヒト・モノ・カネ・情報」といった地域資源を最大に活用し、市役所運営ではなく地域全体を考えた経営視点で計画づくりを進めます。業務の優先順位を法令順守ではなく、市民の皆さんの視点に置いた、みんなが快適に暮らせるまちづくりを目指します。

③ 的確な現状の把握と分析

総合計画づくりを進めるにあたり、以下の点について情報を収集し、把握・分析を行います。

- ・市民の皆さんのニーズ
- ・須坂市を取り巻く社会経済の現状

- ・須坂市の現状の課題
- ・第四次総合計画に基づいた事業の達成度
- ・将来の須坂市の人口予測・土地利用
- ・今後の財政見通し

これらを的確に把握し、須坂市の過去・現在・未来の姿を正しくとらえた総合計画づくりをすすめます。

④ わかりやすい総合計画

難しい専門的な言葉を使わず、総合計画の達成状況が把握できるよう数字での目標を設定し、誰にでもわかる内容づくりを心がけ、総合計画づくりの進行状況や内容は様々な機会を通じて報告します。

(2) 総合計画づくりの背景

記述のポイント：

須坂市を取り巻く社会、経済、生活など広範囲に渡る影響について簡略に説明し、時代の変化に的確に対応した総合計画を策定する必要性を述べる。

- ・世界的な金融危機による経済成長の低下
- ・少子・高齢化の進展、人口減少社会の本格的な到来
- ・地球規模での環境問題の深刻化
- ・価値観やライフスタイルの多様化・高度化
- ・政府や自治体の財政状況の悪化と地方財政計画の変革

須坂市は、平成13年度からの10年間の第四次須坂市総合計画において「やさしさと活力あふれる美しい共生・文化のまち」を目指してまちづくりをすすめてきました。

前回の総合計画づくりから10年近くが経過し、第四次総合計画の目標年次である平成22年度を間近に控えた現在、須坂市を取り巻く社会状況は前回総合計画ができあがった当時想定した以上に大きく変化しています。

- ・世界的な金融危機による経済成長の低下
- ・少子・高齢化の進展、人口減少社会の本格的な到来
- ・地球規模での環境問題の深刻化
- ・価値観やライフスタイルの多様化・高度化
- ・政府や自治体の財政状況の悪化と地方財政計画の変革

これらの社会構造の変化は、社会、経済、生活などに幅広く影響が及び、市政の運営も的確に変化に対応する必要があります。第五次須坂市総合計画をつくるにあたり、現状を踏まえ、目指す将来像を定め、それに向けて実施するまちづくりの方向性を明らかにします。

須坂市のこれからのまちづくりの方向性を明らかにする最も基本となる計画として、総合計画づくりを通じ「住んでよかった」「これからも住み続けたい」と思える「田園環境都市 須坂市」を市民の皆さんと共に創り続けていきます。

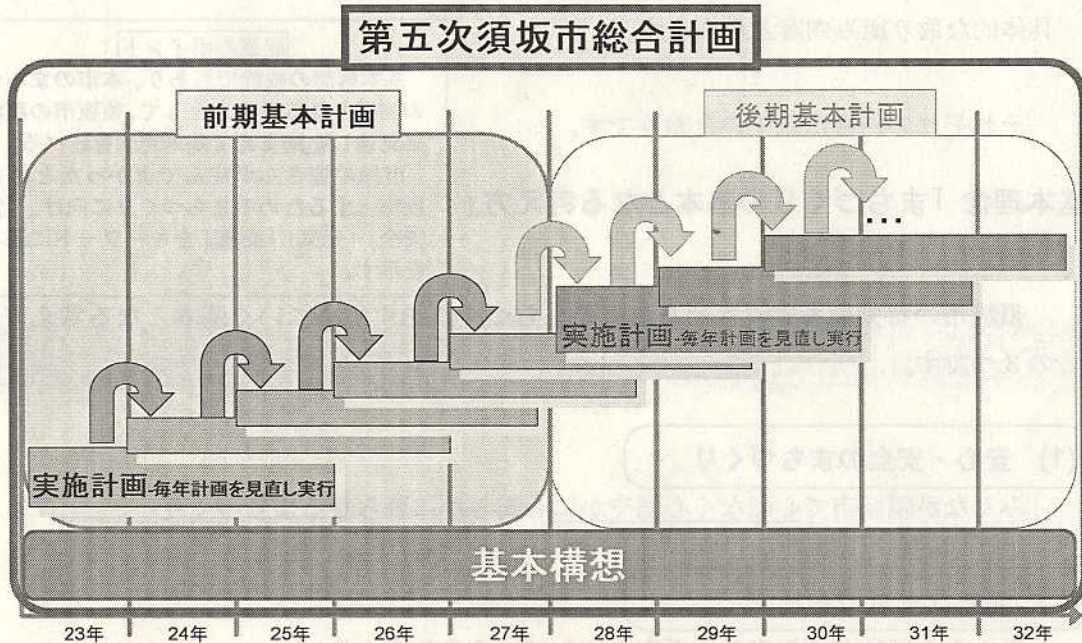
(3) 総合計画の構成と期間

記述のポイント：

本計画は基本構想・基本計画によって構成し、別途実施計画を定めることを記述する。その構成・期間を分かりやすく図を示して説明する。

第五次須坂市総合計画は、「基本構想」、「基本計画」及び「実施計画」により構成され、須坂市が目指すまちづくりの基本を示します。

【総合計画の構成と計画期間】



① 基本構想

これまでの経過や現状、課題を踏まえ、須坂市のまちづくりに対するベースとなる考えと目標とするまちの将来像を示します。市民の皆さんとの共創による将来像の実現を果たす共通の約束として位置づけます。

計画期間：平成 23(2011)年度から平成 32(2020)年度まで

② 基本計画

基本構想で目標とした将来像を実現するため、現状や将来像を考えた上で実施すべきことの重要度や優先順位を定め、実施する基本方針を定めます。

計画期間：

前期基本計画－平成 23(2011)年度から平成 27(2015)年度まで

後期基本計画－平成 28(2016)年度から平成 32(2020)年度まで

③ 実施計画

基本計画に掲げる方針を実現するための具体的な事務事業を示します。毎年度の予算をつくる際の基本的な方針とします。なお、実施計画は第五次総合計画とは別にあらためて

つくります。

計画期間：3年間の計画期間を設け、1年ごとに計画の実行→分析・評価→計画の修正・実行というサイクル（循環）を繰り返します。

基本構想 ⇒ 基本計画 ⇒ 実施計画 ⇒ 予算方針 ⇒ 予算 ⇒ 実施事業の順で、より具体的な取り組み内容となります。

それぞれの内容は以下のとおりです。

2 基本理念「まちづくりの基本となる考え方」

須坂市の将来像を実現させるためのまちづくりをすすめていく基本となる考え方は次の3つです。

(1) 安心・安全のまちづくり

みんなが須坂市で心配なく心穏やかに心安らかに暮らせるまちづくり

(2) 元気なまちづくり

みんなの行動で須坂市をにぎやかにしていくまちづくり

(3) 交流のまちづくり

人と人とのコミュニケーションを基本に、須坂市内外につながりが生まれるまちづくり

記述のポイント：

基本構想の根幹でもあり、本市のまちづくりの前提となる考え方として、須坂市の現状や将来見通しを踏まえて基本理念を述べる。

市民の皆さんが住んでよかったと思える須坂市とするためのまちづくりに向け、「安心・安全」「元気」「交流」をキーワードに基本理念を示す。

3 将来像「みんながめざす須坂市の未来の姿」

須坂市の将来像

『 みんなで一緒に暮らし続けたい田園環境都市—すざか活力、文化、誇りがみなぎる田園環境都市 須坂— 』

記述のポイント：

須坂市の歴史や文化、特性を踏まえた上で、社会的背景や市民ニーズを的確に捉えた将来の須坂市のあるべき姿を示す。

市民の皆さんと行政が一体となったまちづくりを進めるための目標を共有できるよう、市民の皆さんにもわかりやすい言葉で表現する。

わたしたちがめざす須坂市の未来の姿は、

- 市民の皆さんがこれまで「住んでよかった」と感じ、今後も「住み続けたい」と思えるまち
- 須坂市で生活する人、働く人、学ぶ人などすべての人が安心していられるまち
- お互い助け合い、支え合いながら暮らし続けられるまち
- ひとりではなく、家族や職場、学校、地域などのみんなが同じ想いでいられる

まち

が、未来の須坂市の姿です。

私たちは、自然と共生する快適環境、文化に恵まれた須坂に根ざし、福祉や環境、教育、産業の課題に取り組み、みんなの「須坂に住んでよかった」と誇りにもてるまちを「共創」により実現していきます。

みんながめざす須坂市の未来の姿として、須坂市で生活する皆さんの視点で、市民の皆さんや企業、各種団体、行政が一体となって考え方を共有し、実現を目指すものとして位置付けます。

4 基本目標「みんながめざす須坂市の未来の姿を実現するためにおこなうこと」

記述のポイント：

将来像を実現する手法を整理するために、施策を実施する際の基本的考え方を明らかにして、今後の施策展開の方向性をわかりやすく解説する。将来像実現の実現にむけて、次の6つのまちづくりの目標をたてる。「地域医療・健康」、「共創」、「産業」、「まちづくり」、「子育て・教育」、「行政経営」それぞれについて簡潔に分かりやすく述べる。「～～をする」「～～のために～～をする」など行動内容を示す基本計画で実行する目的となるキーワードを明記

将来像を実現させるために、目標年度の平成32年度までの具体的な事業をすすめるための基本的考え方は以下のとおりです。

(1) みんなが支え合い、健康に暮らせるまち

みんなが困っている人に手を差し伸べお互いに支え合い、住み慣れたまちでみんなが健康に安心して暮らせるまちをつくりまします。

(2) 子どもたちが未来に夢をもてるまち

須坂の未来を担う子どもたちが安心してのびのび育ち、自分のみんなの未来に夢が持てるまちをつくりまします。

(3) 豊かな自然あふれる地球環境を守り、の中で安心して安全に暮らせるまち

これからもずっと残していく豊かな自然の中で豊かな自然あふれる地球環境を未来の世代に受け継ぐために循環型社会の実現させるとともに、災害や防犯、交通安全対策を充実させ、みんなが安心して暮らせるまちをつくりまします。

(4) 須坂の多様な文化を学び育て、ずっと学び交流することができる創造的なまち

創造的な人々が住み、一人ひとりが持つ文化的資源を持ち寄り、多様な文化を創り出し市民の皆さんのにとって誇りとなる「まちとしての価値」をさらに高めます。

自主的に学ぶことを通じ市民の皆さんが交流することで、お互いを尊重し合い集えるまちをつくりまします。

(5) 須坂の活力をつくりだせるあふれるまちづくり

須坂の産業を支えることと同時に、みんなのお互いの連携を通して新しいアイデアの創造や人財の育成、雇用の確保により須坂の活力をつくりだせるまちをつくります。

(6) みんなが快適に生活できるまち

生活基盤や道路環境、交通体系などを整備し、花と緑のうるおいとやすらぎが生まれ私たちが快適に生活できるまちをつくります。

(7) 須坂に暮らすみんなが主役のまちづくり

須坂を愛し、良いまちを後の世代につなぐために、市民の皆さんや企業、各種団体が担う「民」の役割の部分と、お互いが補完しあう「公（おおやけ）」の役割の部分、行政をはじめ官公庁が担う「官」の役割の部分とを一人ひとりができることを少しずつづつから担いながら、みんなのまちをみんなで作ります。

5 基本理念、将来像、基本目標の関係

記述のポイント：

「4 基本目標」を踏まえ、めざすまちの将来像を具体化する施策の大綱を定める。大綱に位置づける施策項目は、今後、各部署における施策・事務事業の進捗状況や課題等を踏まえ精査していく（適宜、追加・変更・削除等の見直しを行う）ものとするが、概ね下記の構成によって、「地域医療・健康」「共創」「産業」「まちづくり」「子育て・教育」「行政経営」などの分野別の施策の方向を簡潔に文章化する。

将来像

『みんなで一緒に住み続けたい田園環境都市 すざか』

将来像を実現させるための「まちづくりの基本的な考え方」は、

安心・安全のまちづくり

元気なまちづくり

交流のまちづくり

です。

将来像を実現させるために行う「具体的な事業をすすめるための基本的考え方」は、

みんなが支え合い、健康に暮らせるまち

子どもたちが未来に夢をもてるまち

豊かな自然あふれる地球環境の中を守り、で安心して安全に暮らせるまち

須坂の文化を育て、ずっと学べるまち多様な文化を学び育て、交流する創造的なまち

須坂の活力あふれるをつくりだせるまちづくり

みんなが快適に生活できるまち

須坂に暮らすみんなが主役のまちづくり

です。

「基本理念（まちづくりの基本的な考え方）」と「基本計画（みんながめざす須坂市の未来の姿を実現するためにおこなうこと）」の考えに沿って実施する「基本施策」との関係は以下のとおりです。

【基本理念と基本目標、基本施策の関連】

		みんながめざす須坂市の未来の姿を実現するためにおこなうこと						須坂に暮らすみんなが主役のまち
		みんなが支え合い、健康に暮らせるまち	子どもたちが未来に夢をもてるまち	豊かな自然の中で安心して安全に暮らせるまち	須坂の文化を育て、ずっと学べるまち	須坂の活力をつくりだせるまち	みんなが快適に生活できるまち	
まちづくりの基本的な考え方	安心・安全のまちづくり	社会福祉の充実 健康な暮らしの充実		生活環境の整備 安全に暮らせる生活支援			地球規模で考える自然環境の保全整備 快適な居住環境の整備	市役所運営から地域経営への移行
	元気なまちづくり		教育環境の充実 子育て支援の充実		生涯学習の充実 市民スポーツ活動の充実	地域資源を活かした農林業の充実 時代のニーズに対応できる工業 人々で賑わうための商業振興 たくさんの人が訪れるまちづくり 雇用の確保と充実		
	交流のまちづくり			コミュニケーションの充実				人権の尊重

また、めざす須坂市の未来の姿の実現に向け、特に重点的に取り組むプロジェクトと実施する基本施策を掲げています。

(1) 重点プロジェクト「健康でいつまでも働ける体づくり生涯健康都市」

いくつになっても健康に生活し働き続けられることは、いきいきとした人生のひとつの喜びです。福祉医療と体力づくり、産業振興のそれぞれの立場が連携し、市民の皆さんが健康で生活し、働き続けられる環境をつくる必要があります。

基本施策

- ◆ 福祉社会社会福祉の充実
- ◆ 健康な暮らしの充実
- ◆ 市民スポーツ活動の充実
- ◆ 地域資源を活かした農林業の充実
- ◆ 時代のニーズに対応できる工業
- ◆ 人々で賑わうための商業振興
- ◆ たくさんの人が訪れるまちづくり
- ◆ 雇用の確保と充実

(2) 重点プロジェクト「須坂を担う人財の育成」

まちづくりの基本は人です。人はまちづくりの財産ととらえ、須坂の未来を担う子どもたちが元気良く健康に育ち、仕事に誇りを持ち生まれ育った須坂で働き続けられるよう、お互いが連携し環境を整えます。

基本施策

- ◆ 教育環境の充実
- ◆ 子育て支援の充実
- ◆ 地域資源を活かした農林業の充実
- ◆ 時代のニーズに対応できる工業
- ◆ 人々で賑わうための商業振興
- ◆ たくさんの人が訪れるまちづくり
- ◆ 雇用の確保と充実

(3) 重点プロジェクト「地球環境を守り、自然や歴史文化を未来に受け継ぐまちづくり自然とともに暮らす快適生活」

須坂市には四季折々の美しい姿が見ることができる自然が豊かにあり、また、製糸産業隆盛時の遺産である蔵造りの建物等が多く残っておりかけがえのない財産・景観です。この豊かな自然や歴史の中で暮らすに育てられている私たちには、住環境の快適さのみを求めるのではなく、地球規模での環境保全を考えるとともに自然貴重な歴史文化と一緒に暮らし続けるために、次の世代に変わらない姿で引き継ぐ使命があります。

基本施策

- ◆ 地球規模で考える自然環境の保全整備
- ◆ 快適な居住環境の整備
- ◆ 生活環境の整備
- ◆ 生涯学習の充実
- ◆ 地域資源を活かした農林業の充実
- ◆ 市役所運営から地域経営への移行

(4) 重点プロジェクト「人口増プロジェクト」

日本中の自治体が人口減少時代を迎えた中でも、発展し続ける須坂市を実現させるためには、人口の維持増加は必要不可欠なポイントです。人の集まり、人の流れがまちを賑やかにし、まちを元気にします。まちづくりの基本である人口増加に取り組みます。

基本施策

- ◆ 子育て支援の充実
- ◆ 健康な暮らしの充実
- ◆ 地域資源を活かした農林業の充実
- ◆ 時代のニーズに対応できる工業
- ◆ 地球規模で考える自然環境の保全整備
- ◆ 快適な居住環境の整備

◆ 市役所運営から地域経営への移行

「基本計画」ではこの関係に基づき、「基本施策」の具体的な取り組み内容を説明します。

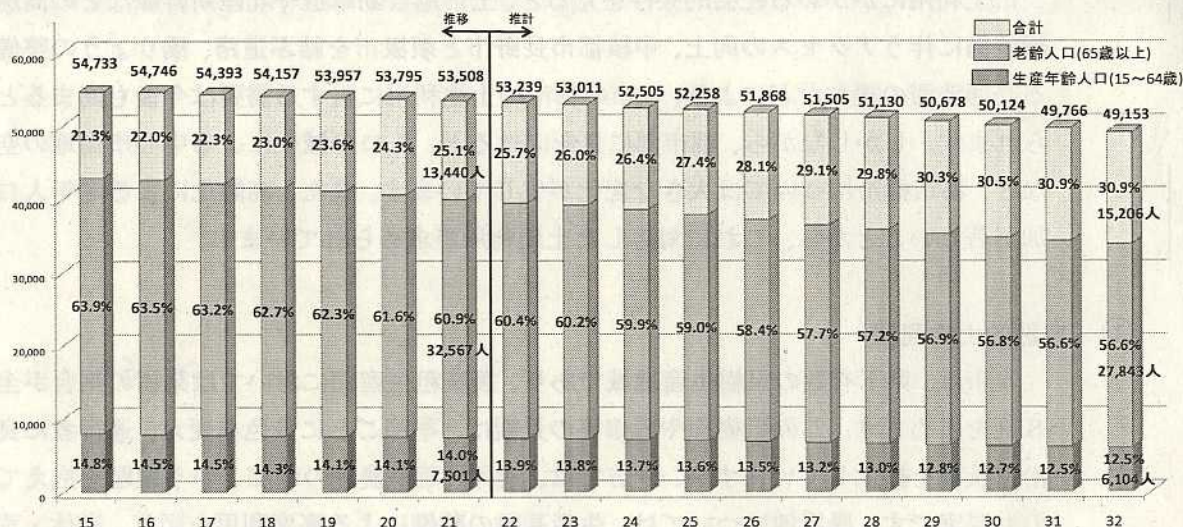
6 将来人口

記述のポイント:

政策推進課により推計した平成32年度の人口は49,153人であり、この推計人口をできる限り増やす施策を反映させた上で将来人口推計を記述する。

須坂市の人口は、このまま何も対策に取り組まなければ今後10年間で約4,000人減少すると予測しています。しかし、〇〇や△△などの事業を行い、□□などにより人口増加が見込まれることから、この基本構想の目標年次平成32年度の須坂市の想定人口は、〇〇万人とします。

【須坂市の人口推移と人口区分の割合】



平成21年度から平成32年度までに、全人口に占める高齢人口の割合は5.8%増(1,766人増)、生産年齢人口は4.3%減(4,724人減)、年少人口は1.5%減(1,397人減)と推計され、全体人口が減少する中で高齢人口の占める割合が増加傾向となることが予想されます。

平成21年度から平成32年度それぞれの区分の人数の増減幅をみると、高齢人口の増加幅は13.1%(h21:13,440人→h32:15,206人)、生産年齢人口の減少幅は14.5%(h21:32,567人→h32:27,843人)、年少人口の減少幅は18.6%(h21:7,501人→h32:6,104人)であり、中でも年少人口の減少幅が大きくなると予想されます。

統計上このように須坂市の高齢人口の割合が増えていくことが推計で出ていますが、高齢人口世代の皆さんが活躍できる環境をつくっていくことが、これからの須坂市のまちづくりには欠かせないテーマのひとつです。(数値は想定人口の設定により変更する)

